

令和 2 年 6 月 2 日現在

機関番号：34408

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2016～2019

課題番号：16K02147

研究課題名（和文）わが国における歯科医療倫理学の構築のための総合的研究

研究課題名（英文）Comprehensive Research on the Formulation of Dental Ethics in Japan

研究代表者

櫻 則章（Katagi, Noriaki）

大阪歯科大学・歯学部・教授

研究者番号：40194766

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,500,000円

研究成果の概要（和文）：本科研費による主要な成果は以下の4つである。1．前回の科研費により作成した『2013年度版 よき歯科医師になるための20の質問 倫理的検討事例集』の教育現場における活用例について調査し、日本歯科医学教育学会において発表した（平成28年度）。2．倫理的検討事例を用いたプロフェッショナリズム教育に関するワークショップを開催した（平成29年度）。3．『2018年版 よき歯科医療人になるための20の質問 倫理的検討事例集』を作成した（平成30年度）。4．倫理的検討事例のひとつをシナリオ化した上で、映像化し、DVDに収めた（令和元年度）。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、これまで進めてきた、わが国における歯科医療倫理学の構築のための研究を歯科衛生学分野も含めて総合的に発展させようとするものであり、そうした研究自体が当該領域におけるわが国における初の試みであるという意味できわめて特色のある研究であって、その意味で学術的意義は大きい。また、本研究の成果は今後の歯科医療に係る教育のみならず、わが国における歯科医療現場の倫理的質の向上にも大いに寄与するものと期待され、社会的意義も極めて大きいと考えられる。

研究成果の概要（英文）：The main outcomes of the study by grant-in-aid for scientific research (KAKENHI) are the followings. 1. Survey of examples of application of “Ethical Cases of Dentistry for Discussion”, which we had made out in the previous research by KAKENHI, at the educational site, and presentation of the result at the academic convention of Japanese Dental Education Association (JDEA) in 2016. 2. Holding of the workshop on dental professionalism education in 2017. 3. Publication of the new edition of “Ethical Cases of Dentistry for Discussion” in 2018. 4. Picturization of one case of “Ethical Cases of Dentistry for Discussion” in 2020.

研究分野：倫理学

キーワード：歯科医療倫理 歯科医療倫理教育 プロフェッショナリズム プロフェッショナリズム教育 倫理的検討事例

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

本科研費による研究はこれまでの科研費による2つの研究を受け継ぐものである。平成22年度から平成24年度の科研費(わが国における歯科医療倫理学の構築のための基盤的研究、基盤研究(C)、課題番号:22520035)による研究では、それまでわが国でまったく手につけられないことのない歯科に特化した医療倫理学、すなわち歯科医療倫理学の基盤の構築を試みた。卒業研修における研修歯科医の問題行動を集めて整理し、卒業研修において問題行動を起こさないようにするために歯学部においてどのような教育が必要であるかを検討する一方で、歯学部における学生参加型(グループ討論型)の歯科医療倫理教育を可能にするために、歯科医学教育と歯科医療の現場で生じる倫理的問題の事例を集めた。それらの成果は最終的に「2013年度版よき歯科医師になるための20の質問 倫理的検討事例集」(以下において「2013年度版」という。)としてまとめることができた。

平成25年度から平成28年度までの科研費(わが国における歯科医療倫理学の構築のための発展的研究、基盤研究(C)、課題番号:25500011)による研究では、基盤的研究をさらに発展させるために歯科医学教育と歯科医療の現場で生じる倫理的問題をさらに広く集めて「2013年度版」の改訂版の作成を試みると同時に、倫理的検討事例から一例を選んで映像化し、DVDに収録した。これは、医科では海外の翻訳版のほかにわが国で制作された医療の倫理的問題について討論するための視聴覚学修教材がすでに多数存在するが、歯科に関するものは皆無であったために、科研費を使用して制作したものである。

本科研費による研究では、これらふたつの科研費による研究を背景として、歯学部の学生だけでなく歯科衛生学を学ぶ学生・生徒も含めた広く歯科医療人育成課程における歯科医療倫理教育のための学修(学習)教材の作成・制作を目指した。

2. 研究の目的

すでに述べたように、本科研費による研究の目的は広く歯科医療人育成課程における歯科医療倫理教育のための学修(学習)教材の作成・制作を主要目的とし、それを通して歯科医療に従事する歯科医療人の倫理的質の向上に寄与することを副次的目的とする。

3. 研究の方法

(1) 本科研費による「2013年度版」の改訂版の作成及びそれを用いた教育方法の改善に向けて以下の3つを実施した。

1) 「2013年度版」の利活用状況の調査(平成28年度)

2) 歯科医師・歯科衛生士育成教育に携わる教員の教育能力の向上と更なる教育資源の開発を目指して第34回日本歯科医学教育学会学術大会にあわせて開催したワークショップ(「倫理的検討事例を用いたプロフェッショナルリズム教育の展開」)の総括(平成29年度)

3) 歯科医療倫理教育の必要性の認識及び歯科医療倫理教育の問題点の情報収集も含めて第36回歯科医学教育学会学術大会にて新たにワークショップ(「プロフェッショナルリズム教育実践へのアプローチ」)を開催しアンケート調査を実施(平成29年度)

(2) 歯科衛生学における歯科医療倫理教育のさらなる改善のために、本科研費の研究代表者が中心となって前回の科研費の成果を一部改変して作成した歯科医療倫理のテキスト(榎 則章ほか著『歯科医療倫理(第2版)』(医歯薬出版、2014年)を教科書として採用している歯科衛生士専門学校等を対象として科目名称、担当教員、1コマ当たりの授業時間、授業回数、履修学年、授業内容、要望等についてアンケート調査を実施した。(平成28年度)

(3) 歯科衛生学教育及び歯科衛生業務の現場における倫理的問題を明確にするために、全国の歯科衛生士専門学校等の教員等の協力を得て歯科衛生学分野の倫理的検討事例を収集した。(平成28年度から平成29年度)

(4) 歯科を含む医療における個人情報の取扱い及び疾患概念の再検討のために、これらについて文献調査を実施した。(平成30年度)

(5) 倫理的検討事例の映像化のために事例をシナリオ化した。(令和元年度)

4. 研究成果

(1) 3の(1)の1)について

全国の大学歯学部長・歯科大学長宛に郵送による質問紙調査を行い、倫理・プロフェッショナルリズム教育担当者からの回答を依頼した。回収率は100%であった。調査した結果は以下の通りである。

「2013年度版」は29校中10校(34.5%)が使用しており、使用学年は1~5年にほぼ均等に分布し、科目名は「倫理」や「プロフェッショナルリズム」が含まれるものが多かった。方略は8校が演習、PBL または TBL を取り入れ、2校が講義のみであった。使用事例は、低学年では大学生活に関するもの、高学年では臨床に関するものが多く、大学の事情に応じて改変して使用しているところもあった。今後希望する事例として、臨床経験のない初年次教育に利用できるよ

うな事例、臨床においては高齢者への配慮、認知症、終末期医療などに関するものがあった。

この結果を踏まえて、今後は、本事例集の周知に加えて、更なる事例の追加、評価方法の確立に向けて活動することとした。これについては、第 35 回日本歯科医学教育学会学術大会にてポスター発表を行うとともに、論文にまとめて日本歯科医学教育学会雑誌第 32 巻第 2 号にて発表した。

(2) 3の(1)の2)について

第 34 回日本歯科医学教育学会学術大会にあわせて開催したワークショップでは、歯科医学教育及び歯科医療現場で直面しうる倫理事例の検討手法についての情報提供並びに Jonsen らのいわゆる「4分割法」を用いた事例検討による教育手法に関するワークショップを実施した。プレ・ポストテストの結果、倫理的検討手法について調査した 8 項目中 5 項目で顕著な改善が見られたものの、やはり Jonsen らの「4分割法」の使い方がわかりにくいという意見が依然として多かった。また、小グループによる事例の倫理的検討には教育する側の人的資源の拡充と時間の確保が必要であることが改めて明らかになった。これについては第 36 回日本歯科医学教育学会学術大会にて口頭発表を行った。

(3) 3の(1)の3)について

27 名の参加者を得たこのワークショップでは、前回の科研費にて制作した視聴覚学修教材を用いた教育手法を含めて参加者とともに歯科医療倫理教育のあり方について議論を深めたが、問題点や改善点等について最終的に整理しきれず、成果発表に至っていない。

(4) 3の(2)について

『歯科医療倫理(第2版)』を教科書として採用している 44 校から回答を得た。科目名称、担当教員、1 コマ当たりの授業時間、授業回数、履修学年、授業内容は多岐に渡っていることが明らかになった。第 2 版で取り入れた case study が活用されている一方で、世界医師会等の宣言はかなり解説を加えなければ授業担当者にとってすら難しいことが判明した。これらを受けて本科研費の成果としてテキストの第 3 版を令和元年度中に出版する予定でいたが、諸般の事情からできなかった。

(5) 3の(3)について

様々な機会を通じて倫理的検討事例の収集に協力依頼を行い、最終的に「2013 年度版」を本科研費による研究の目的に合わせてバージョンアップし、「歯科医師」を「歯科医療人」に拡大し—具体的には歯科衛生士まで拡大し—、倫理的検討事例についても、歯科医学教育の現場だけでなく歯科衛生学教育の現場で生じる事例を加え、事例を全体として 26 例増やして 68 例として、「2018 年度版 よき歯科医療人になるための 20 の質問 倫理的検討事例集」(以下において「2018 年度版」という。)を作成した。

第 37 回日本歯科医学教育学会学術大会にて、同学会の倫理・プロフェッショナリズム教育委員会(本科研費の代表者・研究協力者がその委員である)が企画したシンポジウム「歯科におけるプロフェッショナリズム教育—その方略と展望—」を開催し、参加者に前回の科研費で制作した DVD「入れ歯はひとつ」と今回作成した「2018 年度版」を配布した。

なお、「2018 年版」をもとに事例を厳選するとともに系統化してワークブック形式にまとめたものを日本歯科医学教育学会編「よき歯科医療人になるための倫理・プロフェッショナリズム教育：プロフェッションワークブック」(医歯薬出版、2019 年)(以下において「ワークブック」という。)として出版した。

(6) 3の(4)について

歯科を含む医療の IT 化(さらには IoT 化)により個人情報取り扱いにどのような問題が生じるかについて検討し、成果を簡潔にまとめて、盛永審一郎ほか編『いまを生きるための倫理学』(丸善出版、2019 年)に寄稿した。

疾患概念は主として 1980 年代から 90 年代にかけて広く議論されたものの、その後あまり注目されることのなかった問題であるが、近年になり進化論的なアプローチから再度、疾患に関する非規範主義が主張されるようになってきている。その点を踏まえて、伏木次ほか編著『生命倫理と医療倫理(第4版)』(金芳堂、2019 年)に寄稿した。

(6) 3の(5)について

「2013 年度版」に収められ、その後「2018 年度版」にも、また「ワークブック」にも引き続き収められた「教育利用のために開業歯科医から収集した抜去歯が住宅街に散乱したケース」を「落とし物はヒトの歯」として映像化し、DVD に収録した。前の科研費で制作したものは学修対象者として歯学部の第 3 学年以上を想定し、歯科に関するある程度の専門知識を要するものであったが、今回のものは本科研費の目的に合わせて、歯学部の学生が登場人物であるものの、

歯というものの独自性に焦点を当てたものとなっており、歯学部の初年次学生のみならず、歯科衛生学や歯科技工学を専門的に学ぶ者に対しても歯科医療倫理の教材として使用可能なものとなっている。本視聴覚学修教材は現在、youtube にて限定公開ながら視聴可能となっている。(歯科医療倫理 学修教材 1 「入れ歯はひとつ」 <https://youtu.be/opcs2GTA0ug>, 歯科医療倫理 学修教材 2 「落とし物はヒトの歯」 <https://youtu.be/YB3a0CwipLg>)

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 山本龍生, 木尾哲朗, 尾崎哲則, 櫻 則章, 角 忠輝, 平田創一郎, 和田尚久, 平田幸夫.	4. 巻 32
2. 論文標題 全国歯科大学・歯学部における「2013年度版よき歯科医師になるための20の質問倫理的検討事例集」の利用状況	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 日本歯科医学教育学会雑誌	6. 最初と最後の頁 93-99
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 平田創一郎, 木尾哲朗, 尾崎哲則, 櫻 則章, 角 忠輝, 山本龍生, 和田尚久, 酒寄孝治, 平田幸夫, 俣木志朗
2. 発表標題 ワークショップ「倫理的検討事例を用いたプロフェッショナルリズム教育の展開」報告
3. 学会等名 第36回日本歯科医学教育学会総会および学術大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 平田創一郎, 酒寄孝治, 山本龍生, 木尾哲朗, 尾崎哲則, 櫻 則章, 角 忠輝, 和田尚久, 平田幸夫.
2. 発表標題 全国歯科大学・歯学部における「2013年度版 よき歯科医師になるための20の質問 倫理的検討事例集」の利用状況
3. 学会等名 第35回日本歯科医学教育学会
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 伏木信次, 櫻 則章, 霜田 求編, 櫻 則章ほか22名	4. 発行年 2020年
2. 出版社 金芳堂	5. 総ページ数 xi + 280
3. 書名 生命倫理と医療倫理	

1. 著者名 盛永審一郎、松島哲久、小出泰士編、櫻 則章ほか34名	4. 発行年 2019年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 + 326
3. 書名 いまを生きるための倫理学	

1. 著者名 櫻 則章ほか日本歯科医学教育学会倫理・プロフェッショナリズム教育委員会編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 医歯薬出版	5. 総ページ数 88
3. 書名 よき歯科医療人になるための倫理・プロフェッショナリズム教育:プロフェッションワークブック	

1. 著者名 全国歯科衛生士教育協議会監修、櫻 則章ほか254名	4. 発行年 2019年
2. 出版社 医歯薬出版	5. 総ページ数 xiv + 320
3. 書名 最新歯科衛生士教本 用語集	

1. 著者名 石井拓男、尾崎哲則、櫻 則章、瀬川 洋、日高勝美、平田創一郎、平田幸夫、福田雅臣、藤井一維、俣木志朗、山本龍生	4. 発行年 2018年
2. 出版社 学建出版	5. 総ページ数 + 238
3. 書名 スタンダード社会歯科学 第7版	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	和田 尚久 (Wada Naohisa)		
研究協力者	角 忠輝 (Sumi Tadateru)		
研究協力者	浅沼 直樹 (Asanuma Naoki)		
研究協力者	星野 由美 (Hoshino Yumi)		
研究協力者	長谷 由紀子 (Nagatani Yukiko)		
研究協力者	頭山 高子 (Tohyama Takako)		
連携研究者	平田 幸夫 (Hirata Yukio) (10139579)	神奈川歯科大学・歯学部・教授 (32703)	
連携研究者	尾崎 哲則 (Ozaki Tetsunori) (20194540)	日本大学・歯学部・教授 (32665)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
連携研究者	木尾 哲朗 (Konoo Tetsuro) (10205437)	九州歯科大学・歯学部・教授 (27102)	
連携研究者	山本 龍生 (Yamamoto Tatsuo) (20252984)	神奈川歯科大学・歯学部・教授 (32703)	
連携研究者	平田 創一郎 (Hirata Soichiro) (90433929)	東京歯科大学・歯学部・教授 (32650)	
連携研究者	粟屋 剛 (Awaya Tsuyoshi) (20151194)	岡山商科大学・法学部・教授 (35301)	
連携研究者	霜田 求 (Shimoda Motomu) (90243138)	京都女子大学・現代社会学部・教授 (34305)	